

外国人高度人材の受入れと定着について

－X社に勤務するインド人 IT 技術者の事例－

井坂 佳代

本研究の目的は、外国人高度人材の受入れと定着について明らかにし、理解を深めることである。

政治・経済、文化のグローバル化に対応するため、優秀な外国人高度人材の需要が世界各国の企業で高まっている。特に情報通信技術の分野は技術進歩のスピードが速く、国際競争力の強化や生産性向上に向けて IT 技術者の確保が重要視されており、世界で通用する有能な IT 技術者の獲得競争が始まっている。その中で日本は、企業側が提供する職場環境や外国人高度人材を活用するノウハウが整っていないことが指摘されており、外国人高度人材にとって魅力ある国として評価されていない結果が出ている。それではどのようにしたら外国人高度人材の受入れが日本で促進できるのか。また、外国人高度人材の定着を促すことができるのだろうか。

日本では、外国人労働者のための在留管理制度が整備されており、在留資格の範囲内で就労活動が認められている。その在留資格の中でも、本研究の対象である「大卒ホワイトカラー、技術者」は、専門的な技術や知識を活用して日本企業等に就職することを目的としており、いわゆる外国人社員にあたる。法務省入管管理局 2013 年度発表、「大卒ホワイトカラー、技術者」の在留資格を有する人材の出身国を確認したところ、1位は中国、2位は韓国と隣国が並んでおり、3位のアメリカに続き4位にインドが位置している。インドは公用語にヒンディー語と英語を使うため英語圏での就労を選択することも可能である。

そこで以下の課題を設定した。なぜインド人 IT 技術者は日本を就業先として選ぶのだろうか。また、彼らはどのような経路で日本での仕事を見つけるのか。そして、彼らは日本や日本にある企業に留まる理由は何か。これら課題について本研究では現在日本で就労しているインド人 IT 技術者に注目し考察した。

本研究では、X社に働く 20 名のインド人 IT 技術者にインタビューを行う方法をとった。X社は多国籍企業で、国籍が 40 ヶ国に及ぶ人材が働き、国際的で多様な環境が作られている。中でも IT 部門での雇用は多く、従業員の半数が外国人労働者であり、その外国人労働者の内、半数はインドから来ている。このようにX社はインド人 IT 技術者を多く雇用していることから、X社に勤務するインド人 IT 技術者を対象として選定した。

調査の結果、日本での仕事を選択する理由として、「給料の増加」、「海外での経験」などの個人的な要因や、日本が経済的に豊かで技術が発展しているという社会的な要因が確認された。一方で、仕方なく日本に来たインド人 IT 技術者もいることがわかった。仕方なく日本に来たインド人 IT

技術者は 3 か月以内の短期契約で日本に来たが、日本の環境を知り、長期滞在したいと心変わりしたことが明らかになった。また、日本での仕事を探した経緯として、「日系 IT サービス企業を經由」と「印系 IT サービス企業を經由」の 2 つのパターンがあることがわかり、そのうちの「日系 IT サービス企業を經由」は、上司の推薦や企業間の契約変更により、4 種類のパターンへと変更されたことが確認された。そして、日本に留まる理由として、好条件の仕事や平和で安全な生活環境が挙げられていたが、子供の教育のために日本を離れる可能性があることも示唆された。また、日本の企業に留まる理由として、X 社では快適な職場環境やダイバーシティ環境、上司と同僚からの協力や新技術への挑戦などインド人 IT 技術者にとって満足できる環境が整っていることが明らかとなった。

以上から、インド人 IT 技術者にとって日本の環境は魅力的な環境であり、正確な情報が伝わればインド人 IT 技術者を日本に惹きつけることができるのではないかと考えられた。今後は積極的な情報を発信することが必要だと考えた。また、インド人 IT 技術者が日本に赴任する経路に関して、日系・印系 IT サービス企業からの仲介が大きな役割を果たしており、正確な情報を仲介業者から発信することでより多くのインド人 IT 技術者の赴任へと繋がるのではないかと考えられた。そして、X 社に限ったパターンである可能性があるが、快適な職場環境やダイバーシティ環境の維持や、上司や同僚とコミュニケーションが取れる環境を構築し、常に新技術を習得する機会を提供することで、企業への一層の定着促進につながると考えた。

本研究は長期的に日本に滞在した者に調査をしており、短期で帰国した者はなぜ帰国したのか、その理由と実態を調査することは定着について研究する上で非常に重要なことだと考えられ、今後の課題と思われる。

(指導教員： 西川真規子教授)